

活動報告

世界史推進委員会夏期集中講座その一

テーマ「交流の世界史」

◎第一日 八月二二日(月) 会場 県立柏陽高校

講師&テーマ 松木健一(柏陽高) 原 範子(シ) 木村芳幸(シ)

「交流の意味とその具体例」

受 講 者 柏陽高(五名) 外語短期大学付属高(一〇名)

栄光学園高(五名) 大船高(一名) 鎌倉高(一名)

計二二名 教員一四名

生徒も教員も1時間の授業を三人で行うコラボレーションの授業は大きなインパクトを受けたようである。地図をフルに使った授業は交流の流れをわかりやすく生徒に伝えた。

◎第二日 八月二三日(火) 会場 栄光学園高校

講師&テーマ 大島弘尚(栄光学園高) 小杉隆一(大和高)

「陸の交流—中央ユーラシアを中心に」

受 講 者 柏陽高(四名) 外短付属高(一四名) 栄光学園高

(五名) 鎌倉高(一名) 計二四名 教員一三名

スクリーンに映るシルクロード風景には教員も引きつけられた。画像を駆使した講義はいま最も求められている授業形態であった。

◎第三日 八月二五日(水) 会場 外語短期大学付属高校

講師&テーマ 堀部宏人(大清水高) 石橋 功(外語短大付属高)

「海の交流」

受 講 者 柏陽高等学校(二名) 外短付属高(三三五名)

栄光学園高(四名) 鎌倉高(一名) 中学生(三三名)

計四五名 教員二〇名

前日までの講義とは違って変わり、オーソドックスな授業が展開された。インド洋の交流の歴史を『アラビアン・ナイト』から『エリクトラー航海記』まで、資料を多く用いたハイレベルな授業が展

開され、とりわけ「国民国家」と「港市国家」の相違に注目した点がこれまでにない新しいものであった。

世界史推進委員会夏期集中講座その二

テーマ「戦後史」

◎第一日 八月二六日(木) 会場 外語短期大学付属高校

講師&テーマ 澤野 理(新城高)

「第二次大戦後のヨーロッパ史」

受 講 者 (三年世界史受験希望者) 外語短期大学付属高(四

二名) 柏陽高(四名) 新城高(三名) 計四九名

教員一二名

プリント六枚という大量の内容が二時間の授業で見事におさまったことには感心させられた。テンポの速さは特筆。だが早いだけでなく、ソ連の指導者の「ツル・フサ理論」は大ウケで笑いを誘った。

◎第二日 八月二七日(金) 会場 外語短期大学付属高校

講師&テーマ 古川寛紀(上郷高) 『アジア・アフリカの戦後史』

受 講 者 (三年世界史受験希望者) 外短付属高(三三八名)

柏陽高(四名) 計四二名 教員九名

昨日と同じプリント六枚、加えて資料三枚の量をどうこなすかに注目。時間節約のためにマグネットであらかじめ用意した答えを黑板に貼る工夫には生徒も感心していた。

◎第三日 八月二九日(月) 会場 外語短期大学付属高校

講師&テーマ 早川英昭(大船高) 『東アジアの戦後』

受 講 者 (三年世界史受験希望者) 外短付属高(三三八名)

柏陽高(四名) 計四二名 教員一名

正統派とも評すべき格調高い授業。歴史の「裏側」の構造を考えて日本と中国・朝鮮の相互連関を講義した。中国や韓国にも、さらに北朝鮮にも行った経験をもつ講師の説得力有る「語り」に生徒も教員も魅入られた二時間だった。